

## 靈的聖体拝領

世の中は新型コロナウイルスの猛威に、大いに混乱しています。この時節、私達教会は、どの様に生きるべきでしょうか？全く新しい事態に混乱しておられるかも知れませんが、教会の歴史の中で見れば、疫病や迫害によって、ミサに参加できないことは幾度もありましたし、今回が特別酷いというわけでもありません。長い教会の歴史の中では、このような時にどの様に処すべきか、色々な事例の蓄積が既にあるのです。

しかし、キリストが何度も「恐れるな」と言われるくらい、私達は恐れや不安によく囚われます。本来、信仰とは不安や恐れとは無縁のものであるにも関わらずです。新型コロナウイルスの猛威の前に、あらゆる集會が避けられ中止されていますが、教会は変わることなく存在しています。ミサは非公開になっても、相変わらず捧げられ、「Missa pro populo」と呼ばれる小教区主任司祭の義務は問題なく遂行されています。また、ミサの意向も受け付けています。ただ、そこに臨席できないことは、多くの信徒の方の苦痛になっていることでしょう。この時、どうぞ自分独りのことだけを考えるのではなく、以前からミサに参加できない人々のことも考え、彼等と連帯していただけるといいのではないかと思います。病気や高齢などの理由や、社会生活上どうしてもミサに参加できない人は、以前からたくさんいました。そういった場合に、ミサに来ないことを責めるような態度を取ったり、自分がミサに参加することを誇ったりしている姿も、現実に時折みられました。それらは本来の信仰の在り方からは外れていたことは説明するまでもないでしょう。

例えミサに参加できない時であっても、自分の場所で心を合わせ祈ることや、聖体拝領を望むことは昔から「靈的聖体拝領」として勧められていました。本人の落ち度によらず、聖体拝領ができない場合に、聖体拝領を心から望む場合、その恵みの全部ではなくとも、大部分を受けることができます。神は気前の良い方であり全能であるので、救いを求める方のために手段を選ばれないからです。これが神への信頼であり、強い信仰の在り方と思います。

山形教会主任司祭

ROMO SRI WALUYO SSSC